

年間授業計画様式例

東京都立千早高等学校 平成29年度 教科:家庭 科目:フードデザイン 年間授業計画

教科: 家庭 科目: フードデザイン 単位数: 2単位

対象学年組: HR 31 ~HR 36)

使用教科書: (フードデザイン 教育図書)

使用教材: (なし)

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	(1) 健康と食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・食生活の実態について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の乱れについては、認識を深めることができる。 	4
	(1) 健康と食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義と役割について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の食生活を振り返り評価できる。。 	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
5 月	(4) 調理実習	<ul style="list-style-type: none"> ・調理室の使い方 ・調理の基本(調理操作) ・食品を適切に扱い、調理させる。(米①) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯を炊く、だし汁をとるなどの基本的調理操作理解し実習する。 	3	
	(2) 栄養素と食品の特徴	食品の特徴でんぷん(米)についてレシピノートの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・米の種類についてレシピ帳にまとめる。 	4	
	(4) 調理実習	和食献立	調理実習	3	

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	(4)調理実習	・食品を適切に扱い、調理させる。(米②)	・和食献立の実習として炊き込みご飯、みそ汁、おひたし、卵料理を行う。	3
	(3)調理と献立	・献立作成に取り組みさせる。	・一汁三菜の和食献立の形を学習し、献立作成を行う	2
	(4)調理実習	・食品を適切に扱い、調理させる。(小麦粉①)	・イタリア料理としてスパゲティペペロンチーノ、カポナータの実習を行う。	3
	(3)調理と献立	・各グループがたてた献立をグループごとにレシピを作成する。		2

7月	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	調理実習のまとめ	レシピ帳の作成	・1学期分のレシピノートを まとめて提出する。	3

8月	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	授業なし			

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	(3)調理と献立	・献立作成に取り組ませる。	・一汁三菜の和食献立の形を学習し、献立作成を行う。	2
	(4)調理実習	・食品を適切に扱い、調理させる。(小麦粉②)	・小麦粉を利用した料理としてピザ・スープの調理実習を行う。	3
9 月	(3)調理と献立	・献立作成に取り組ませる。	・小麦粉について調べレシピ帳にまとめる。	2
	(4)調理実習	・洋風料理献立	調理実習	3

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	(4)調理実習	・食品を適切に扱い、調理させる。(中国料理献立①)	・中国料理として回鍋肉、涼拌三絲、粟米湯の実習を行う。	3
	(3)調理と献立	・中国料理について調べレシピ帳にまとめる。	・中国料理について調べレシピ帳にまとめる。	2
	(4)調理実習	・食品を適切に扱い、調理させる。(中国料理献立②)	・中国料理として包子、搾菜肉絲湯、杏仁豆腐の実習を行う。	3

11月

指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
(3)調理と献立	・グループごと作成した献立をプレゼンさせて、生徒献立による調理実習メニューを決めさせる。	・各班ごと調理実習献立を作成しプレゼンテーションを行う。	3
(4)調理実習	・食品を適切に扱い、調理させる。(生徒献立①)	・生徒による献立でを実習する	3
(4)調理実習	・食品を適切に取り扱い、調理ができる(生徒献立②)。	・生徒による献立でを実習する	3
(3)調理と献立	・行事食について調べまとめる。	・行事食について調べレシピ帳にまとめる。	2

12月	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	調理実習のまとめ	レシピ帳の作成	・2学期分のレシピノートを まとめて提出する。	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
1 月	(3) 調理と献立	・最後の調理実習として自由献立をたてる。	・自由献立をつくる。	3
	(4) 調理実習	・食品を適切に取り扱い、調理ができる。(自由献立)	・生徒による献立でを実習する	3
	調理実習のまとめ	レシピ帳の作成	・一年分のレシピノートをまとめて提出する。	2

2月	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	授業なし			

3月	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	授業なし			

年間授業計画様式例

東京都立千早高等学校 平成29年度 教科:家庭 科目:家庭基礎 年間授業計画

教科: 家庭 科目: 家庭基礎 単位数: 2単位

対象学年組: HR 31 ~HR 36)

使用教科書: (家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍)

使用教材: (なし)

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	自分らしい人生をつくる① 生涯発達の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・生涯発達の視点で自立について考える。 	自分自身の将来について考え文章にまとめる。	2
	自分らしい人生をつくる② 青年期の課題 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題について理解させる。 ・人生すごろくの作成 	グループ討論に参加し、意見を表明できる。	4
	自分らしい人生をつくる③ 青年期の課題 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・人生すごろくの作成 ・各ライフステージの特徴と課題を理解させる。 	ライフステージについて理解し人生すごろくを作成する。	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	自分らしい人生をつくる④ 家族家庭を見つめる	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭をどうとらえるか。 ・家族と世帯について理解する。 	家族家庭についての定義を各自考え文章にまとめる。	2
	自分らしい人生をつくる⑤ これからの家庭生活と社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化と家族について資料を分析し家族家庭の問題点を探る。 ・少子高齢化について考える。 	資料を分析し家族・家庭をとりまく問題点を理解する。	2
	自分らしい人生をつくる⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・家族家庭の問題点について小論文を書く 	家族家庭の問題点をあげて小論文にまとめる。	2
	自分らしい人生をつくる⑦ 家族と法律	<ul style="list-style-type: none"> ・民法と家族・家庭について理解を深める。 ・家庭生活と福祉について考える 	福祉についての知識を深め、家庭生活との関連が創造できる	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	子どもとともに育つ①	・乳幼児の心身の発達の特徴、乳幼児の生活などについて理解させる。	乳幼児の心身の発達の過程がわかる	2
	子どもとともに育つ②	・子どもの発達を支える親や家族、家庭生活の役割について理解させる。	子どもの発達を支える親や家族、家庭生活の役割がわかる	2
6 月	子どもとともに育つ③	・子どもの発達と遊びについて理解する。 ・絵本の作成	発達に応じた絵本を考えて作成する。	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
	期末考査			1
	テスト返却及び一学期のまとめ		学習内容の確認	1
7 月	子どもとともに育つ④	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と遊びについて理解する。 ・絵本の作成 	発達に応じた絵本を考えて作成する。	2

8月

指導内容

授業なし

科目〇〇の具体的な指導目標

評価の観点・方法

配
当
時
数

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	生活の自立 衣生活をつくる①	・被服の役割を考える	被服の機能を理解しTPOに合わせた着想ができる。	2
	生活の自立 衣生活をつくる②	・被服材料と管理	被服材料とその性能を知り、適切に選択、購入できる。	4
9 月	生活の自立 衣生活をつくる③	・繊維から糸、糸から布に至る過程について知る ・伝統工芸である「刺し子」の技術を使って花ふきんの製作をする。	・手縫いの文化を継承し、生活に生かすことができる。	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	生活の自立 食生活をつくる①	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活について考える。 ・人はなぜ食べるのかを考える。 ・食事と栄養・食品について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活チェックを通して、何をどう食べているのかを知る。 ・五大栄養素とその役割について知る 	2
	生活の自立 食生活をつくる②	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の基礎と調理実習(キャベツとベーコンのペペロンチーノ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な昼食を用意することができる。 ・レシピをみて効率よくおいしく調理ができる。 	4
	生活の自立 食生活をつくる③	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素と食品(炭水化物) 	<ul style="list-style-type: none"> ・米、小麦、イモなどの栄養と調理特性について知る。 	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11月	生活の自立 食生活をつくる④	・栄養素と食品（たんぱく質と脂質）	・たんぱく質を多く含む食品について調理特性や加工方法をする。 ・脂質の種類と特性を知り、適切に摂取できる。	2
	生活の自立 食生活をつくる⑤	・栄養素と食品（無機質とビタミン）	・無機質とビタミンの役割と摂取方法についてし知る。	2
	生活の自立 衣生活をつくる④	・着こなし講座	・スーツの着こなしとメンテナンスについて知る。 ・繊維の基礎知識、特にスーツに使用されるウールの特質について知る。	2
	生活の自立 衣生活をつくる⑤	・伝統工芸である「刺し子」の技術を使って花ふきんの完成させる。	・手縫いの文化を継承し、生活に生かすことができる。	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	期末考査			1
	生活の自立 住生活をつくる①	・住みたい家と場所	・間取り図を利用して住みたい家を描くことができる。 ・どんなところ（住環境）に住みたいか自由に描くことができる。	2
12 月	テスト返却及び二学期のまとめ		学習内容の確認	1

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	生活の自立 住生活をつくる②	・一人暮らしの部屋探しと生活費	・卒業後の生活を想定して情報誌等から部屋探しをし、生活費を考えることができる。	4
	生活の自立 食生活をつくる⑥	・お菓子を作ろう。調理実習(カップケーキ)	・お菓子を作り、プレゼント用にラッピングをする。	4

2月

指導内容

家庭学習

科目〇〇の具体的な指導目標

評価の観点・方法

配
当
時
数

3月	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	家庭学習			

年間授業計画様式例

東京都立千早高等学校 平成29年度 教科:家庭 科目:子どもの発達と保育 年間授業計画

教科: 家庭 科目: 単位数: 2単位

対象学年組: HR 31 ~HR 36)

使用教科書: (子どもの発達と保育 教育図書)

使用教材: (なし)

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	(4) 子どもの保育 イ 保育の方法	・遊びにおける保育士の役割を知る。	・交流授業の報告書をまとめる。	4
	保育交流事前指導	・保育交流授業における園児との交流の方法と注意について理解させる。(千早子どもの家保育園園長)	・子どもとの交流の方法・接し方の注意などを知る。	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	保育交流準備	・保育交流授業における園児との交流の方法と注意について理解させる。(千早子どもの家保育園園長)	・子どもとの交流の方法・接し方の注意などを知る。	2
	(1) 子どもの発達 ア 生涯発達における乳幼児期の意義	・発達の概念を理解させる。	・可能性に富む存在として乳幼児をとらえる。	2
	保育交流授業①	・近隣の保育園を訪問し、園児とふれあい、園児の発達段階等を体験的に理解させる。	・交流授業に取り組む	2
	(4) 子どもの保育 ア 保育の意義と目標	・保育とは、適切に擁護しながら教育的にかかわることであり、子どもを育てる教育的営みの総称であることを理解させる。 ・保育士の役割を認識させる。	・保育士としての役割をにしきする。	2
	保育交流授業②	・近隣の保育園を訪問し、園児とふれあい、園児の発達段階等を体験的に理解させる。	・交流授業に取り組む	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	(4) 子どもの保育 イ 保育の方法	・遊びの意義、遊びに対する考え方を知る。	・遊びの意義、重要性を理解する。	2
	保育交流事前指導	・保育交流授業における園児との交流の方法と注意について理解させる。(千早子どもの家保育園園長)	・子どもとの交流の方法・接し方の注意などを知る。	2
	保育交流授業③	・近隣の保育園を訪問し、園児とふれあい、園児の発達段階等を体験的に理解させる。	・交流授業に取り組む	2
	保育交流授業④	・近隣の保育園の園児を本校に招き、体を動かす遊びを中心に園児とともに活動させる。 ・5歳児の運動能力、言葉や指示の理解力を体験的に理解させる。	・交流授業に取り組む	2
	(4) 子どもの保育 イ 保育の方法	・遊びにおける保育士の役割を知る。	・交流授業の報告書をまとめる。	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
7 月	保育交流授業のまとめ	・三回行った交流授業の内容を遊びカードにする。	・「遊びカード」の作成	4

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
8 月	授業なし			

指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
(2) 子どもの発達過程 ア 身体発育と運動機能の発達	・交流体験を通して、理解したこと、考えたことを話し合い、共有させる。	・交流授業の準備を行う。	4
(2) 子どもの発達過程 ア 身体発育と運動機能の発達	・運動機能の発達を促す活動について理解させる。	・運動機能の発達と遊びについて考え交流授業の準備をする。	2
9月 保育交流授業⑤	・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる	・交流授業に取り組む	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	保育交流授業⑥	・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる	・交流授業に取り組む	2
	(2) 子どもの発達過程 エ 人間関係の発達	・愛着関係と発達について理解させる。 ・自己受容感、基本的信頼が人間関係の広がりを支える核となることを理解させる。	・乳幼児の心の発達について理解する。	2
	(4) 子どもの保育 ウ 保育の環境	・家庭と集団保育の特徴や役割を理解させる。 ・幼稚園、保育所、認定保育園など集団保育の制度を理解させる。	・集団保育について学ぶ。 ・次回の交流授業の準備をする。	2
	保育交流授業⑦	・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる	・交流授業に取り組む	2

11月

指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
保育交流授業⑧	・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる	・交流授業に取り組む	2
(2) 子どもの発達過程 イ 認知機能の発達	・遊びを通して、集団のルールやきまりを理解し道徳性が芽生えることを理解させる。 ・思考の発達と行動の変化を結びつかせる。	・交流授業の報告書をまとめる。	2
保育交流授業⑨	・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる	・交流授業に取り組む	2
(2) 子どもの発達過程 イ 認知機能の発達	・遊びを通して、集団のルールやきまりを理解し道徳性が芽生えることを理解させる。 ・思考の発達と行動の変化を結びつかせる。	・交流授業の報告書をまとめる。	2

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	(2) 子どもの発達過程 イ 認知機能の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して、集団のルールやきまりを理解し道徳性が芽生えることを理解させる。 ・思考の発達と行動の変化を結びつかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流授業の報告書をまとめる。 	2
	保育交流授業⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流授業に取り組む 	2
	保育交流授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・三回行った交流授業の内容を遊びカードにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びカード」の作成 	4

指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
保育交流授業④	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の保育園を訪問し、工作等の活動を通し、指先を使う運動、指示に対する理解力等の発達状況を体験的に理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流授業に取り組む 	2
保育園実習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習のまとめをさせる。 ・お礼状と園児へのカードを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の卒園に向けてカードを作成する。 	2
保育園実習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育体験学習のまとめをさせる。 ・お礼状と園児へのカードを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の報告書を作成し提出する。 	2

1
月

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
2 月	授業なし			

	指導内容	科目〇〇の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配 当 時 数
3 月	授業なし			